

さぬき発 実践報告(発表資料)

フィリピンに安全な飲料水の供給を！

(JICA 民間連携普及・実証事業)

(株) イナダ

代表取締役社長

稲田 覚

フィリピン・西ネグロス州サガイ市の多くの人達が安全な飲み水を必要としている事を知ったのは2010年、ここでのマングローブ植林をスタートさせた年でした。

私はオイスカメンバーとして、30年間アジア各国で植林活動を行うなか、どの国も飲料水に困っていることを見てきました。ここフィリピンでは毎年のように台風の被害にみまわれるため、飲み水の入手が難しいのでなにか良い手段はないものかと州知事より相談を受けておりました。

おりしも2011年福島の震災後、高松市の㈱村上製作所さんが、災害時のための可搬型浄水機を開発された事を知りました。この浄水機は、川・池・雨などの自然水を飲料水に浄化できるもので、是非これをフィリピンへ持って行ければと思いました。

そこでJICAさんの協力をいただき、サガイ市水道局をパートナーとして水のとどかない地域に飲料水を供給するという事業を、2015年1月よりスタートさせました。

これからこの地域の人々が悦ぶ姿をイメージしながら頑張っ参ります。

㈱イナダ代表取締役社長

稲 田 覚



# 安全飲料水、フィリピンに

農作業用運搬車などを製造するイナダ（三豊市）は1月下旬から、安全な水の確保が難しいフィリピンの一部地域で飲料水の供給事業に乗り出す。国際協力機構（JICA）との連携事業で、上水道が未整備の山間部に浄水装置を導入して有効性や採算性などを検証する。将来的には、同じ問題を抱える世界各地での事業展開も視野に入れる。

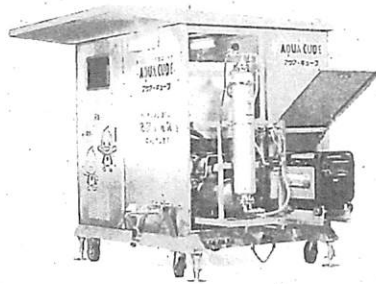
上水道が未整備で安全な飲料水の確保が難しいフィリピン・サガイ市の山間部



飲料水の供給事業は、途上の新たな支援策としてJICAが2012年から取り組んでいる「民間連携事業」の一環。同事業は中小企業の優れた技術力を途上国の問題解決に役立てるとともに、企業の海外進出を後押しするのが狙い。  
イナダは今回、来年8月までの間、取引先の村上製作所（高松市）が開発した浄水、発電、貯水タンクが一体となった浄水装置2台をフィリピン・サガイ市に設置し、近くの河川などを水源として住民約6千人に飲料水を有料で供給する。また、装置

## 三豊の企業が実証事業へ

サガイ市の山間部に導入する浄水装置



他の住民は割高な飲料水を購入するか、井戸水などを煮沸して飲用しているのが実情。殺菌や異物除去が不十分なことから、衛生上の問題を長年抱えているという。

30年来の親交がある地元の小知事から相談を受けたイナダの稲田寛社長らは、2年ほど前から現地に何度も足を運び、水質調査や住民への聞き取りなどを実施してきた。稲田社長は「安全な水を

## JICAと連携

の維持管理について技術指導するほか、搬送可能な浄水装置の特徴を生かし、災害時の飲用水給水システムの構築も図る。  
サガイ市は、市街地では上水道が普及しているものの、求める住民の要望は強い。生活面や雇用面で地域に潤いを与えたい」と抱負を語り、今回の事業結果によっては周辺地域や他国への事業拡大を検討していきたいとしている。

## 会場の声

(アンケートから一部抜粋)